

町の観光資源満喫

赤羽中 鮎子川へ修学旅行

紀北町立赤羽中学校は17、18の2日間、紀北町と熊野市で修学旅行を実施。3年生4人が鮎子川でカヌーや火起こしを体験し、鬼ヶ城や紀和鉱山資料館を訪れた。

同校は毎年5月に東京へ出掛けたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、2年連続で県内で実施。当初は京都や四日市を検討していたが、関西や北勢地域の感染状況の悪化を受けて近隣地域に変更し、初日はキャンプイン海山の自然体験、2日目は熊野市編

光のスケジュールを組んだ。スクールバスで午前10時にキャンプイン海山に到着した一行は、この日宿泊するコテージにチェックイン。テントの設置やカヌー、火起こしを体験した。カヌー体験では、ライフジャケットを身につ



カヌーを楽しむ生徒



鮎子川について説明を受ける

け、木のバドルを手にした生徒が2人一組でカヌーに乗り込んだ。バドルのとき方や曲がり方のコツをすぐにつかむと、自由自在に川を進んでいた。

カヌー体験に先立ち、キャンプ場を運営するふるさと企画舎の田上至理理事長から、紀北町の観光資源について説明を受けた。

田上理事長は「コロナで遠くに行けなかったのは残念だけど、みんながキャンプができるのは楽しくてすごくわくわくしている。カヌーをやるのも初めてですごく楽しい」と笑顔で話した。

田上理事長は「町内の学校の修学旅行を受け入れるのは初めてだが、将来を担う子どもたちに町

内の観光資源を知ってもらう機会で、とても有意義でありたい」と話した。この子たちの地域にも、赤羽川という貴重な自然の資源があり、その活用を考えるきっかけになってくれれば」と語った。